

高き志【こころざし】

枠を超えた挑戦（その2）

町内小学校の学童クラブでクラスターが発生し、休校が急に決定しましたので少し動揺しましたが、現段階で大きな感染拡大には至らず、無事に学校が再開できました。しかし、国、県ともに厳しい状況が続いており、気を緩めることができない日々が続きます。今後も保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

「枠を超えた挑戦」…この言葉が、本年度の本校教育活動のキーワードであることは、先日発行しました学校便り第1号でお知らせしました。今号では、その時予告しておりましたように、その具体的な内容についてお知らせします。下の枠内は、職員への説明用に作成した文書です。ほぼ、そのまま掲載しておりますので、専門的な用語や少し分かりにくい部分もあるかと思いますが、取組の概要は御理解いただけるのではないかと思いますので掲載することにしました。

1 基本的な理念

将来の教科担任制（高学年）も見据え、複数職員（全職員）で、担当する児童（全児童）の教育に責任をもつシステムを構築する
担任の枠を超える 今まで当然としてやってきたことの枠を超える

2 具体的な取組例1 【副担任制を中心に】

- 基本的には、副担任制とする。担任と副担任が学級経営に責任を持つ。副担任は、朝の時間、帰りの会、給食等も必ず一緒に指導をする。（絶対に担任任せにしない）昨年度のブロック制の考え方で、取り入れられるところは積極的に挑戦してみる。
- 担任と副担任の組み合わせは下のとおりとする。
1年【担任：朝倉・副担任：志水】 2年【担任：湯本・副担任：川上】 3年【担任：赤星・副担任：岩田】
4年・5年【担任：永嶺・岩木・副担任：山田】 6年【担任：甲斐・副担任：配置無し】
- できるところから、これまでの学級担任の概念にこだわらない、担当職員全員で、担当している児童全員を育てるというシステムに挑戦していく。
- 担任・副担任の取組例
 - 朝の会、帰りの会、給食指導等の方法を共通理解し、定期的に指導者が交代、または複数体制で指導する。
 - 可能な範囲で学級懇談に副担任も参加する。
 - 保護者対応も担任と副担任で対応していく。
 - 特別支援学級担任（なかよし）が交流学級の授業でT1となり、交流学級の担任が支援（T2）に回る。
 - その他、やってみたいことがあれば、どんどん挑戦していく。
- 交代授業の取組例
 - 中・高学年は、時数が同じ教科についての交代授業（国、算、音、図、体、英）を積極的に導入する。
 - 低学年や、その他の教科でも、それぞれが得意な教科を考慮した交代授業や合同授業を実施する。（単元ごと可）
- 特別の教科道徳についての取組例
 - 授業者を交代する。

3 具体的な取組例2 【プロジェクトチームの取組】

- 前年度3学期に取り組んだ「あいさつプロジェクト」を踏襲し、プロジェクトチーム発信の「様々なプロジェクト」を全校的取組として展開する。
- プロジェクトチーム・メンバー
湯本先生（プロジェクトリーダー）、赤星先生（サブリーダー）、朝倉先生、永嶺先生
- 児童会・委員会や学級での取組と連携（発信が逆の場合有り）
- 全職員で全児童を指導する体制の構築と意識の改革

分かりにくい部分もあるかと思いますが、私が職員に超えてほしいと思っている枠は、「学級担任」と「今まで当然としてやってきたこと」の二つの枠です。具体的な取組例は少し示しましたが、職員自らが「やってみたい」と思い、取り組んでくれることが何よりも重要だと思っています。ですから、例には示してあっても進まない取組があるかもしれません。しかし、この一年間で「少し」でも、「一つ」でも枠を超えた取組が前進してくれたらと願っているところです。